

心理学的な支援と応用演習(司法・犯罪心理学)	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	2単位	SR(演習)	1・2年
	担当教員	小林 万洋	

■授業のテーマ

司法・犯罪心理学の知見と臨床心理学の方法による矯正施設における心理学的支援

■授業の目的

矯正施設（刑務所、少年院、少年鑑別所）での法務技官（心理）の実務経験が記載された文献を参照しながら、非行や犯罪を行った人々への心理学的支援の在り方について探求します。

■授業の到達目標

- ①司法・犯罪領域、取り分け矯正施設における心理学的支援には、他の領域（保健医療、福祉、教育、産業・労働）での支援と共通する部分と当該領域独自の特徴があることについて説明できる。
- ②非行や犯罪を行った人々が抱える様々な事情、生活課題、特性等について理解できる。
- ③矯正施設に収容される当事者への心理学的支援の在り方について、自らの見解を表現することができる。

■授業の概要

非行・犯罪については、メディアを通じて報道される内容や情報がほとんどであり、それによって私たちの犯罪観・非行観が形作られるところがあります。しかし、矯正施設の業務の中で、非行や犯罪をした当事者と向き合うことを通じて、新たに教えられること、気づかされること、考えさせられることは数多くあります。非行・犯罪を行った当事者を心理学の視点から理解しようとする営為を通じて、「非行・犯罪」という行動の新たな意味や隠れた側面が浮き上がり、非行・犯罪の捉え方、関わり方について新たな視座が得られます。さらに非行・犯罪は私たちの身近にある生活課題、福祉課題の一つにほかならないこと、非行・犯罪への対処・支援や再犯・再非行の防止は、単に司法領域の課題にとどまらず、保健医療、福祉、教育、産業・労働などの多領域における支援と重層した取組が必要不可欠であり、非行や犯罪を行った当事者への関わりや支援は、当該当事者はもとより社会全体のウェルビーイングの向上に資する取組であることをも考えていきます。

■スクーリング事前課題（学修時間の目安：12～15時間）

まず「加害者臨床を学ぶ 司法・犯罪心理学現場の実践ノート」を通読してください。矯正施設で勤務する心理職が実務を通じて出会った当事者との関わりの中で考えたこと、感じたこと、読み取ることができたことなどが著者の言葉で率直に語られています。次にこれまで御自身が非行・犯罪について抱いていた捉え方、見解、受け止め方と、本書の中で述べられている著者の当事者への視点とを比較し、どのような感想、所感を持たれたかを内省してみてください。その上で、今後、非行・犯罪という行動と非行や犯罪をした当事者と御自身が関わるとしたら、どのような関わりが望ましいと考えるか、検討してください。

提出していただく資料として、まず第1回から第4回の内容に係る質問事項（ワード：適宜の様式）を第5回対面授業の3日前までに事務室へメールで提出してください。次に対面授業（第6回から第11回）の中で、各回お一人10分程度の発表を想定していますので、その資料を御準備ください。発表用の資料（パワーポイント3～4枚程度に加え、必要に応じて配付用の資料）は第5回対面授業の3日前までに事務室へメールで提出してください。

■スクーリング授業計画（状況に応じて会場ではなくリモートで実施します）

	授業の内容	授業の方法
1	オリエンテーション	オンデマンド
2	少年司法制度の概要	オンデマンド
3	刑事司法制度の概要	オンデマンド
4	非行・犯罪行動の心理学的理解・支援と社会システム	オンデマンド
5	小括（これまでの授業内容に係る質疑応答と今後の授業の説明など）	対面(会場)
6	第1章 社会を困らせる“魅力的な”人々 第2章 逸脱の理解—その核心と周辺	対面(会場)
7	第3章 適応と不適応 第4章 事件と罪を見つめる	対面(会場)
8	第5章 逸脱の起源 第6章 加害者臨床と「契約」	対面(会場)
9	第7章 私という主体—実体性 第8章 援助者の「不実」	対面(会場)
10	第9章 臨床家の利用可能性 第10章 仲間・異業種	対面(会場)
11	第11章 トレーニングとしてのスーパーヴィジョン 第12章 薄氷の上のダンス	対面(会場)
12	まとめ	対面(会場)

■レポート課題

スクーリング 事後課題	司法・犯罪領域、非行・犯罪の心理臨床において、当事者と支援者の関係性の在り方についてあなたの見解を論じてください。
----------------	-----------------------------------------------------------

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

「非行・犯罪」という行動をどうみるか、どう捉えるか、また当事者にどのように関わるかについて、演習を通じての御自身の所感と思索した内容をまとめていただければと思います。

■評価の方法・基準

スクーリング時の参加度30%、プレゼンテーション30%、事後課題レポート40%

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- * 1) 門本泉 2019 『加害者臨床を学ぶ 司法・犯罪心理学現場の実践ノート』金剛出版
- * 2) 寮美千子 2018 『あふれでたのはやさしさだった 奈良少年刑務所 絵本と詩の教室』西日本出版社
- * 3) 藤原正範 2024 『罪を犯した人々を支える—刑事司法と福祉のはざままで』岩波書店
- 4) 法務省法務総合研究所 2025 『令和7年版犯罪白書』：<https://www.moj.go.jp/content/001451875.pdf>
- 5) 法務省 2025 『令和7年版再犯防止推進白書』：<https://www.moj.go.jp/content/001451882.pdf>
- 6) 石毛博 2010 『青少年犯罪の意味探究 心理学的査定による更生支援のために』星雲社
- 7) 小栗正幸 2010 『発達障害児の思春期と二次障害予防のシナリオ』ぎょうせい